

本日配信の逆ラジオ通信 No.38 W-231011 のトピックスにも載せていますが、東海地方の長期大型データが、同じタイミングで減衰してきています。具体的には、【東伊豆】【浜北 017】【伊勢B 261】【伊勢B 262】【伊勢D 484】および【高知安芸】ですが中間の【和歌山一A】と【和歌山大地】にも大きな壁状のデータが出ています。ただ【和歌山一A】と【和歌山大地】はまだ減衰してきていません。

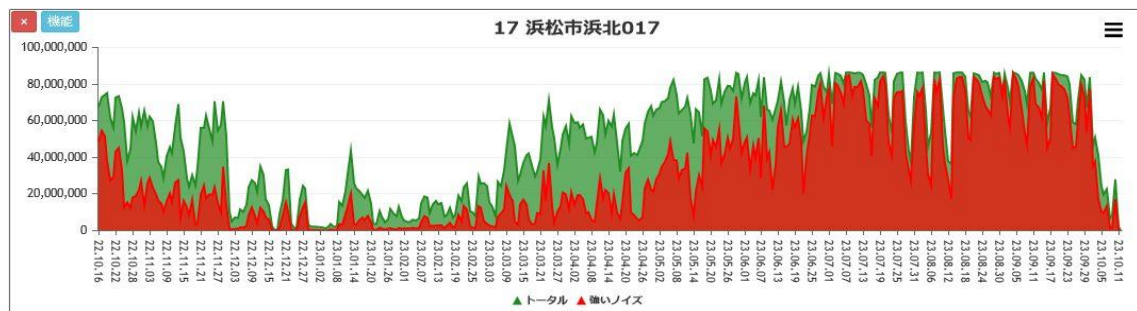
しかしこれらのデータの位置関係を見ると、南海トラフに沿っていて それぞれのデータは どれも長期に続いていて、データ自体も大変大きく、日毎データにすると数百万以上の数値になっていて、とても危険なデータです。

仮にこれらのデータがお互いに同期している場合は、伊豆から浜松、伊勢を通り、和歌山を経て、高知の安芸までの＜南海トラフ地震の震源域＞が動きだしてきている、とも考えられ、この先警戒が必要です。以下各観測点のデータを参考に載せます。

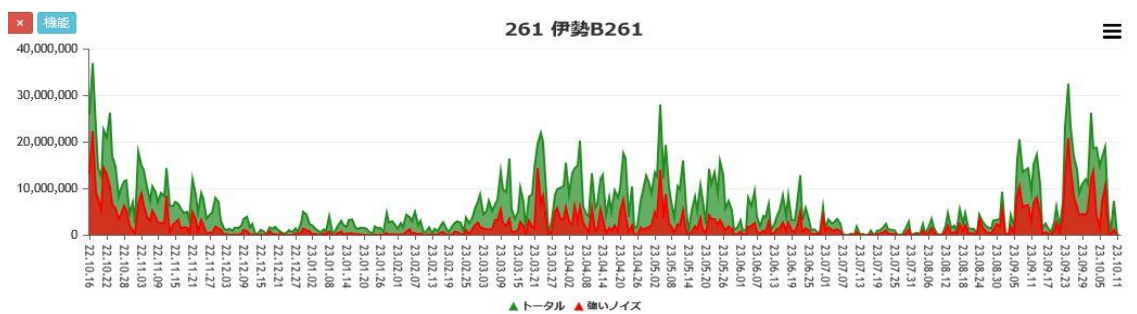
東伊豆 360 日間（日毎）データ



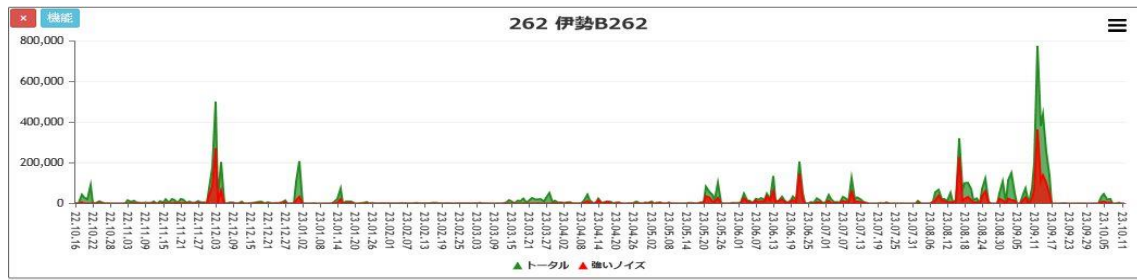
浜北 017 360 日間（日毎）データ



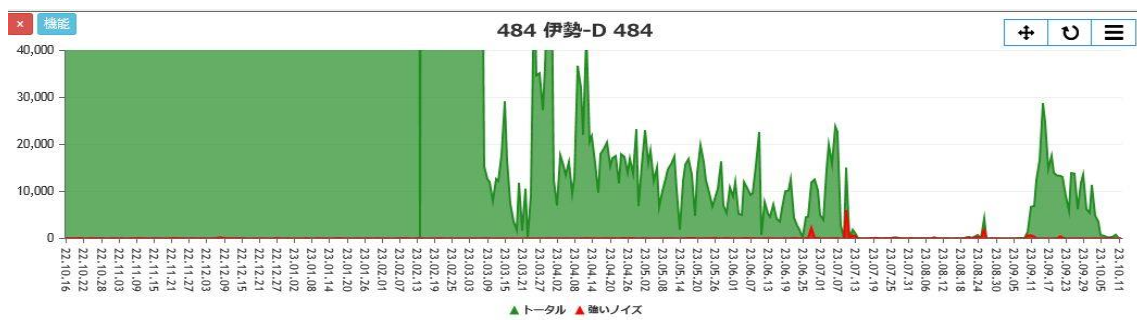
伊勢B 261 360 日間（日毎）データ



伊勢B262 360日間(日毎)データ



伊勢D484 360日間(日毎)データ



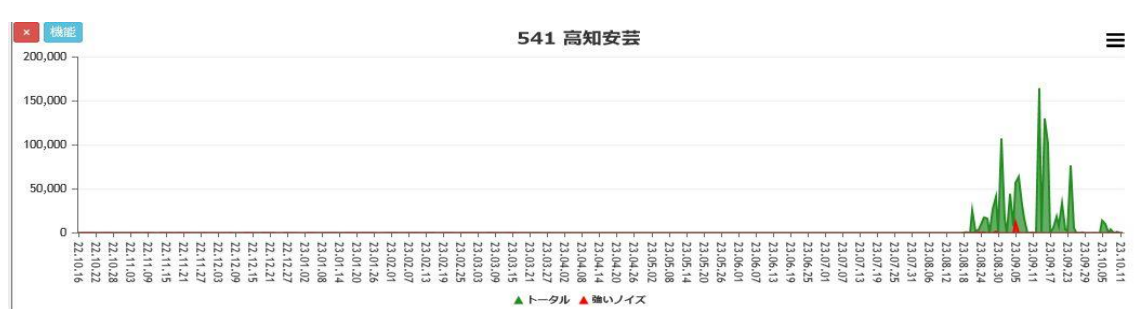
和歌山一A 360日間(日毎)データ



和歌山 大地 360日間(日毎)データ



高知 安芸 360日間(日毎)データ



<位置関係>



南海トラフの震源域に重ねたマップ

